

航空事故調査報告書  
日本航空株式会社所属  
ダグラス式MD-11型JA8587  
シベリア上空  
平成7年12月30日

平成8年2月1日  
航空事故調査委員会議決  
委員長 竹内和之  
委員 小林哲一  
委員 川井力  
委員 東口實  
委員 相原康彦

## 1 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ダグラス式MD-11型JA8587は、平成7年12月30日14時44分（協定世界時1995年12月30日05時44分）、同社定期411便として新東京国際空港を離陸しアムステルダム国際空港に向かう飛行中、平成7年12月30日19時45分ごろ、北緯64度、東経107度付近（シベリア上空）において、乗客1名が機内で死亡した。

### 1.2 航空事故調査の概要

#### 1.2.1 調査組織

航空事故調査委員会は、平成8年1月4日、本事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

#### 1.2.2 調査の実施時期

平成8年1月5日 事実調査

### 1.2.3 原因関係者からの意見聴取

意見聴取を行った。

## 2 認定した事実

J A 8 5 8 7は、平成7年12月30日14時44分（協定世界時1995年12月30日05時44分）、同社定期411便として乗組員15名及び乗客185名、計200名が搭乗し、アムステルダム国際空港に向けて新東京国際空港を離陸した。

同機がアムステルダム国際空港に向けて飛行中、17時57分ごろ、乗客の男性（71歳）が、急に意識を失ったため、乗り合わせていた医師及び客室乗務員により、酸素吸入、心肺蘇生が施されたが、19時45分ごろ、北緯64度、東経107度付近（シベリア上空）において、同医師により死亡が確認された。

同医師の診断によると死因は、心筋梗塞であった。

なお、同行者によれば、当該乗客には前胸部痛の既往症があったとのことである。

## 3 原 因

本事故は、飛行中、航空機内で乗客が心筋梗塞により死亡したものと認められる。